

事務事業 No./名称	■サービス部門 経企-12 都市提携事業 □支援部門						
主管課	秘書広報課	関連課					
分野名	多文化共生社会						
目標 (目標値)	人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
運営資源状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	267	286	489			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	267	286	489			
	人員配置数	0.5	0.5	0.5			
	人件費(千円)	4,057	4,380	4,408			
事務事業運営経費	協働のパートナー	国際交流・協力団体連絡会	国際交流・協力団体連絡会	国際交流・協力団体連絡会			
	総事業費(千円)	4,324	4,666	4,897			
	市民1人当りの経費(円)	24	26	28			
	対象者1人当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
鎌倉市パートナーシティ制度による都市提携の推進	△	目標値			1	1	1
		実績値			0	0	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退							

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
都市提携事業	267千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A □B □C □D □E	⇒ □A □B □C □D □E	■B □C □D □E
	事業の概要	・姉妹都市などの提携都市を親善訪問する市民に対して奨励金を交付し、市民や市民団体の協力を得ながら、都市間交流を推進する。 ・市民団体の交流を主体とする新たな都市提携であるパートナーシティ制度による都市間交流を推進する。			
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	・市民や市民団体が行う都市交流事業等に奨励金を交付し、都市間交流を推進する。 ・市民団体の交流を主体とする鎌倉市パートナーシティ制度による都市間交流を推進する。		
課題解決のための取組	・都市交流事業等奨励金交付要綱に基づき奨励金を交付し、都市間交流の推進に努めた。 ・鎌倉市パートナーシティ制度に基づく申請があり、都市交流推進委員会での意見聴取などを行った。	取組の結果	□解決 ■未解決
未解決の課題	・都市交流事業等奨励金の交付については、実績が2件と低調であった。 ・鎌倉市パートナーシティ制度に基づく申請について、提携に向けた事務が継続中である。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
		②妥当性 ○		市民を主体とした都市交流を推進していくため、都市交流事業等奨励金の周知及び利用の促進に努めていく。また、鎌倉市パートナーシティ制度による都市提携を推進していく。	課長等名
		③有効性 ○		↓	秘書広報課長
		④公平性 ○		B	奈須 菊夫

